

IATSS NEWS

学会通信 国際交通安全学会

- 第6回 IATSS国際フォーラム (GIFTS)開催
- 2019年度研究調査報告会を開催
- IATSS Research Vol. 44, Issue 3 および Issue 4 発行

第6回IATSS国際フォーラム(GIFTS)開催

国際交通安全学会は1974年の設立以来、学際的で国際的な研究活動を基軸として、交通とその安全に関わる諸問題に取り組んできました。当学会は、2024年に創設50周年を迎えますが、世界的規模で増大する交通事故やその他交通を取り巻く諸

問題に取り組むために、交通に携わるすべての方々の参画する「超学際性：Transdisciplinary」を重視し、国際機関等と連携した活動を強化することに致しました。

その活動の一環として、2015年より国際フォーラム“Global Interactive

Forum on Traffic and Safety”（略称GIFTS）を開催し、これまで交通とその安全に関わる国際的、超学際的「共創」の場として、多方面の専門家による活発な討議を行ってきました。昨年度第5回までは、東京の会場で開催してきましたが、第6回GIFTSはコロナ禍のもと、オンライン参加の形式で2020年11月26日(木)に、「交通文化の多様性と安全軽視行動」というテーマで開催されました。国・地域によって異なる価値観、生活信条、社会制度がみられますが、これら文化的要因が交通行動に多大の影響を与えていることから、交通参加者の行動のもととなる要因を国ごとの比較において評価分析することが、交通事故を理解する上で必要となってきます。

このような観点から、学術的分野や実務的な分野で第一線の専門家としてジョージ・ジアニス（アテネ国立技術大学教授）、スザンナ・ザマタロウ（国際道路連盟事務局長）、ソームズ・ジョブ（世界銀行、GRSF/GLRS局長）、ニコラス・ウォード（モンタナ州立大学教授）の4氏にご登壇いただきま

国際シンポジウム「交通文化の多様性と安全軽視行動」

- 開会挨拶 会長 武内 和彦
- 趣旨説明 国際フォーラム実行委員会委員長 北村 友人
- 報告 世界銀行GRSF/GLRS局長 ソームズ・ジョブ
「交通安全管理における交通文化多様性と役割」
国際道路連盟事務局長 スザンナ・ザマタロウ
「歩行者の道路横断行動、および文化が社会的情報の利用に与える影響」
アテネ国立技術大学教授 ジョージ・ジアニス
「交通安全文化の国際的多様性」
モンタナ州立大学教授 ニコラス・ウォード
「ビジョン・ゼロを実現する交通安全文化と安全システムのアプローチ」
- パネルディスカッション 司会 北村友人
パネリスト ソームズ・ジョブ
ジョージ・ジアニス
スザンナ・ザマタロウ
ニコラス・ウォード
- 閉会挨拶 専務理事 鎌田 聡

した。この4氏の報告では、交通文化は、各国・地域において経済発展段階に関係なく地域特有性のあること、世界的に見て、「安全軽視行動」は依然として高いことが指摘されました。そして、効果的な対策のためには危険な交通行動を変えること、すなわち、文化(=共有の信念)を変えることが重要であり、社会全体のステークホルダーが「交通安全文化」の定

義を共有し、安全性重視の文化を植え込むことが必要であることが強調されました。また続いて、この4氏による討議セッションにおいては、交通安全文化が各国・地域において多様であることが再度確認され、取り締まり等の安全対策についても、各々の実状にかなった方法と優先順位で実施すべきであること、有効な対策と正しい優先順位ののために、データを収

集・比較分析し、解釈することを重視することなどが提案されました。

なお、今回のオンライン方式による開催では、58カ国330名以上の方に参加いただきました。当日の内容要旨ならびにアーカイブ動画は、当学会ホームページにてご覧いただけます。

▶<https://www.iatss.or.jp/event/list/event21.html>

2019年度研究調査報告会を開催

2020年12月14日(月)、リモートにて、2019年度国際交通安全学会研究調査報告会を開催しました。当初、2020年4月の開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大を受け、延期していただいたものです。

今回、2019年度に行われた研究調査の中から、4テーマが報告されました。各テーマの概要は、次の通りです。

【テーマ1】広場・歩行空間における群衆行動の観測とその制御による安全性向上に関する研究

本プロジェクトは、人口密度が高く狭隘道路の多いアジアの大都市において問題となりつつある、広場・歩道空間の歩行者群衆(主体)に起因した現象を対象としたものである。大規模イベント開催地周辺、また公共交通結節点(鉄道駅等)周辺の道路では、混雑が多発する。これら混雑は、歩行者の安全・快適、周辺交通への影響、犯罪発生などに関わる一方で、モバイル通信の発達やこれに基づいた群衆(状態)の把握と制御・誘導、

さらには、これらに基づいた空間設計に関する知見は、あまり得られていない。1年目に実施した関連研究レビュー、世界における歩行者系空間・広場整備と群衆と犯罪との関連性に関する事例収集、モバイルデータの精度検証、群衆状態の基礎分析、国内渋谷ハロウィン、神戸ルミナリエでの観測調査とモバイルデータとの比較、ヒアリングに基づいた雑踏警備の現状について、関連情報を整理することができた。今後は、より詳細な分析および群衆状態の管理・制御方策について、実行可能な知見を提供したい。

【テーマ2】都市の文化的創造的機能を支える公共交通の役割

本研究は、2018年度より開始したもので、最終的に、持続可能かつ創造的な未来の都市で、文化的かつ創造的な機能・活動の集積の重要性を踏まえ、それを支える公共交通の役割を明らかにし、提言をめざすものである。2年目の2019年度は、余暇活動意識調査、ニューヨーク市元交通局長の招聘

とセミナーの開催、ニューヨーク、ロンドン、ウィーンへの現地調査、東京と富山での調査準備を実施した。

海外専門家招聘および海外現地調査から、都市空間構成、公共交通にかかる街路や広場空間、公共交通施設とサービスの工夫例を学んだ。余暇活動意識調査から、活動意義、行動連携、受け止める空間の必要性等を確認した。地図作業と研究会での討議から、公共交通のサービスやシステム、インフラの課題とともに、余暇活動への高揚や余韻を受け止めるバッファ機能として、活動場所と連携する街路や広場を含めたバッファ空間の意義と、その空間と公共交通の連携の意義を確認した。

【テーマ3】健康起因事故防止のための実証的研究と防止対策の普及啓発に関する研究

健康障害が事故の原因である重大な交通事故の増加を受けて、国土交通省は、健康起因事故対策検討委員会を設置する等、健康起因事故防止は、交通事故対策の重要

な課題として認識されてきた。本プロジェクトでは、職業運転者を対象に、これまで系統的な対策が遅れていた視野スクリーニング検査ならびに花粉症に関連する眠気や睡眠時無呼吸症候群（SAS）の問診を実施することで、これらの健康障害に対する対策法の確立と普及啓発を目的とした。2018年度では、約2,000人の職業運転者を対象に、視野欠損の簡易スクリーニングツールであるクロックチャートならびに、花粉症に関連する眠気やSASに関する質問票を用いて調査を実施し、クロックチャートの有所見者に対して受診勧奨を促した。2019年度では、2018年度調査で見出した有所見者約300名に対して、眼科への受診勧奨ならびに、その診断結果の照会により、職業運転者における

視野欠損の有病率を明らかにするための詳細な追跡調査を実施した。また、本調査結果に基づき、国内の運輸業等の事業者を対象に、視野欠損ならびに、SASの早期発見・早期治療に関するシンポジウムを開催し、普及啓発活動を行った。

【テーマ4】インド小規模都市群における地域に根ざした計画・デザインの提言と社会実装の取り組み～持続可能な開発目標（SDGs）への貢献を視野に～

本プロジェクトは、インド小規模都市群において、SDGsの視点から交通安全、公共交通、大気環境などの現状と課題を把握し、インド工科大学のコミュニティに根差した取り組みと、当学会の領域横断的な知見をフル活用することで、具体的なアクションを展開す

る方法を提案し、実施することを目的としており、2019年度はその3年目である。これまでは、代表的な小都市として選定したパティアラ、ブランドシャール、ナイニタールの3都市において、選定したSDGsターゲットの達成状況と、改善するための具体的方法を街路デザインガイドライン案として取りまとめた。2019年は、各都市で提案したガイドラインを完成させるとともに、都市計画マスタープランとSDGsターゲット達成のためのロードマップを作成し、さらに現地行政と連携して、SDGsターゲットの達成を目指す実際の取り組みにつなげるために、関係者を集めたワークショップを実施し、具体的なニーズや課題、解決策を明らかにした。

IATSS Research Vol. 44, Issue 3 および Issue 4 発行

IATSS Research Vol. 44, Issue 3およびIssue 4が発行されました。
Elsevier Ltd.のサイトより、無償で全掲載論文のダウンロードが可能です。

Vol. 44, Issue 3

▶ <https://www.sciencedirect.com/journal/iatss-research/vol/44/issue/3>

<Special Feature: The ESRA Initiative: Towards Global Monitoring and Analysis of Road Safety Performance>

Uta Meesmann, Hideki Nakamura

The ESRA initiative: Towards global monitoring and analysis of road safety performance

Carlos Pires, Katrien Torfs, Alain Areal, Charles Goldenbeld, Ward Vanlaar,
Marie-Axelle Granié, Yvonne Achermann Stürmer, Davide Shingo Usami, Susanne Kaiser,
Dagmara Jankowska-Karpa, Dimitrios Nikolaou, Hardy Holte, Toru Kakinuma, José Trigos,
Wouter Van den Berghe, Uta Meesmann

Car drivers' road safety performance: A benchmark across 32 countries

Uta Meesmann, Katrien Torfs, Mario Cools

Socio-cognitive factors in road safety monitoring – Cross-national comparison of driving under the influence of alcohol, drugs or medication

Charles Goldenbeld, Katrien Torfs, Willem Vlakveld, Sjoerd Houwing

Impaired driving due to alcohol or drugs: International differences and determinants based on E-Survey of Road Users' Attitudes first-wave results in 32 countries

Wouter Van den Berghe, Michael Schachner, Veronica Sgarra, Nicola Christie

The association between national culture, road safety performance and support for policy measures

Craig Lyon, Dan Mayhew, Marie-Axelle Granié, Robyn Robertson, Ward Vanlaar, Heather Woods-Fry, Chloé Thevenet, Gerald Furian, Aggelos Soteropoulos

Age and road safety performance: Focusing on elderly and young drivers

George Yannis, Dimitrios Nikolaou, Alexandra Laiou. Yvonne Achermann Stürmer, Ilona Buttler, Dagmara Jankowska-Karpa

Vulnerable road users: Cross-cultural perspectives on performance and attitudes

<General Topics>**Omar Raddaoui, Mohamed M. Ahmed, Sherif M. Gaweesh**

Assessment of the effectiveness of connected vehicle weather and work zone warnings in improving truck driver safety

D.D. Dinh, N.H. Vū, R.C. McIlroy, K.A. Plant, N.A. Stanton

Effect of attitudes towards traffic safety and risk perceptions on pedestrian behaviours in Vietnam

Subasish Das, Anandi Dutta

Extremely serious crashes on urban roadway networks: Patterns and trends

Daniela Arias-Molinares, Juan C. García-Palomares

The Ws of MaaS: Understanding mobility as a service from a literature review

Vol. 44, Issue 4

► <https://www.sciencedirect.com/journal/iatss-research/vol/44/issue/4>

<General Topics>**Ratnasari Ramlan, Muhammad Zudhy Irawan, Ahmad Munawar**

The impact of the existence of the volunteer on handling the waiting time at unsignalized intersection in Yogyakarta, Indonesia

Sharaf AlKheder, Fahad Al-Rukaibi, Asma Al-Faresi

Driver behavior at Kuwait roundabouts and its performance evaluation

Amir Mohammadian Amiri, Navid Nadimi, Amin Yousefian

Comparing the efficiency of different computation intelligence techniques in predicting accident frequency

Yen Tran, Toshiyuki Yamamoto, Hitomi Sato, Tomio Miwa, Takayuki Morikawa

Attitude toward physical activity as a determinant of bus use intention: A case study in Asuke, Japan

Subasish Das, Anandi Dutta, Ioannis Tsapakis

Automated vehicle collisions in California: Applying Bayesian latent class model